

2014年度 教師海外研修 研修報告書 派遣国：タンザニア学校名：神奈川県立神奈川総合産業高等学校担 当：商業氏 名：増山 一光**1. 今回の研修における目的やねらい**

今回の研修における目的やねらいは、大きく分けて2つあります。1つ目は、アフリカの今を知ることです。これまで、私は学校設定科目である「国際協力」という授業で何度もアフリカを取り上げてきました。しかし、それらは様々な資料収集の結果による授業展開にすぎませんでした。今回、この研修に参加することでタンザニアからアフリカにおける現実の姿をとらえたいと考えました。2つ目は、実際に青年海外協力隊や専門家として国際協力に参加している人々の活動を、直接的に見て、触れて、感じることです。これまでも本校に青年海外協力隊のOB・OGの方々による講演を実施してきましたが、実際に私が見てくることで、少しでも国際協力の現状を理解できればと思いました。

2. 目的やねらいがどのくらい達成されたか

今回の研修における目的は、十分に達成できるほどの充実した研修でありました。むしろ、さらに多くの人の活動やタンザニアの各地域の人々の生活状況など視察したいという探究心が芽生えたことが何よりの収穫であったと思います。

3. タンザニアから学んだこと

これまで実施されたタンザニアでの教師海外研修と今回との大きな違いは、ザンジバルでのホームステイがあったことです。ここで多くのことも学びました。タンザニアは1人当たりのGNIで見れば、日本の1/10にしかすぎず最貧国の1つですが、ホームステイに参加してみると、人々の生活が「幸せ」に包まれていました。たった1日のホームステイでしたが、この「幸せ」はどこからきているのだろうと考えていました。そこで、ホームステイをした村の人々との交流でわかったことが、村の人々が互いに助け合い、顔と顔をあわせたコミュニケーションを常にしているという事でした。つまり、貧しいかもしれないが人と人とのつながりが密であるということです。このことは、日本では忘れつつあることがタンザニアにはあるように思いました。一方で、病気やけがによる社会的弱者の自立が難しい事実にも直面しました。こうした人々の生き様を学べたことが大きな収穫でした。

4. 今回の研修経験をどのように教育活動に活用しようと思っているか

タンザニアでの研修で、ダルエスサラーム、ザンジバル、モロゴロを訪問しました。まず、この3地域の比較から「タンザニアの今」を考えさせる授業を行いたいと思っています。具体的には、各訪問地で撮影してきた写真を用いたフォトラーニングを実施し、生徒らの考える様々な視点からタンザニアを通じてアフリカを理解させたいと思います。これにより、アフリカに対する日本人の持っているステレオタイプを少しでも変えられるようにしたいと考えています。さらに、国際協力に携わっている専門家の活動をベースとした課題解決学習を実践することを考えています。これは、実際に見学させていただいたZAWAで活動されていた日本人の方をモチーフにして、生徒らがそこで国際協力を行う立場になったことを想定して解決策を考えていくものです。こうした学習活動から、意見の違う生徒とのコミュニケーションを通じて協力して物事を進める大切さを学ばせたいと思います。

5. 今回の研修に参加してよかったことや、よりよくするための提案

私の個人的な感想ではありますが、今回の研修は全行程にわたり良かったです。中でも、ホームステイは一生の思い出になると思います。もし提案することがあるとするならば、関係機関等との調整も難しいと思いますが、訪問先の選定などに関して参加者の意見を反映させていただけると良いと感じました。

6. 海外研修での役割（各担当や日直）を振り返っての感想・提案など

私の海外研修の役割は会計でした。会計は、個別会計が難しい食事の際に、参加者からあらかじめお金を預かっておき、支払いを進めるとともに、最終的に会計報告を行います。こうした集団での研修においては必要不可欠な業務だと思います。会計の業務遂行に当たっては、やはり会計業務に精通された方が行ったほうがよいです。毎日の研修の中で、食事の時間はゆっくりできる時間ですが、会計をしているとお金の管理や会計処理に追われることも多くなります。このような場合でも余裕持って対応することが求められます。しかし、人数が多ければよいというわけではありません。そこで提案ですが、研修中一貫したメインの会計担当と毎日の日直の人が担当することで、すべての人が会計に責任を持つことができると思います。

7. その他、研修全般を通じての感想・意見など

研修全般については、これまで私が受けてきた多くの研修の中で、最も素晴らしい研修の一つであったと思っています。一方では、JICAのみなさまの周到な研修の準備が過度の負担になっていないかが心配でした。限られた研修期間で効率的かつ多方面にわたる研修を企画・実施していただいたことに感謝しております。

8. 今後の本研修参加者へのアドバイスなど

今後、本研修に参加を考えている方々へ申し上げることがあるならば、研修期間中の体調管理をできるようにしてほしいということです。異国の地では、水、食事などが原因で体調を崩すことがままあります。本研修の場合、体調を崩してしまうと、せっかくの研修をキャンセルしてしまうことになります。そのため、ご自身の体調管理は不可欠です。加えて、研修では積極的に多くの人とコミュニケーションをとるようにしてください。研修の成否は自らの行動にかかっているといえますので、積極的な行動が求められます。

9. 各訪問先等の所感

日 時	テーマ	所 感
8月11日(月) -12日(火)	日本からタンザニアまでの移動中および現地到着	羽田よりタンザニア（ダルエスサラーム）までトランジットを含め17時間。長い空旅です。
8月12日(火)	JICAタンザニア事務所表敬 研修ブリーフィング	到着後の研修ブリーフィングでは、日本国内で聞くことのできないタンザニアの現状を多く聞くことができました。こうしたブリーフィングを日本国内でもできないかと思いました。
8月12日(火)	本日の振り返り	この日は、ダルエスサラームで見るものすべてが新鮮であり、ブリーフィングで伺ったことを復習しつつ、明日以降の予定を確認しました。
8月13日(水)	JICAタンザニア事務所 研修ブリーフィング	ブリーフィングの2日目は教育と水事業を中心に行われました。ともに興味深い話であるとともに

		に、今回の研修の基礎なるものでした。
8月13日(水)	ザンジバルへ移動	高速船での移動でした。船上デッキで地元の方との交流をすることができました。
8月13日(木)	隊員との懇談会	4名の青年海外協力隊の方と懇談することができました。参加の動機や現状の活動などについて情報交換をすることができました。
8月13日(水)	本日の振り返り	ダルエスサラームとザンジバルの違いが際立った一日でした。翌日に訪問する沢谷隊員とあらかじめ意見交換ができたことが、有意義でした。
8月14日(木)	ムナジモジャ病院 沢谷隊員 活動視察	沢谷隊員との活動を視察することができました。沢谷隊員が病院にとって不可欠な存在になっていることが印象的でした。しかし、病院の全体像からは、医療が不足しているように感じられる側面が多くみられました。
8月14日(木)	ザンジバル水公社 (ZAWA) プロジェクトサイト視察	日頃見ることのできない水道事業の取水からの流れをみるすることができた。さらに、ザンジバルでの水事業の根本課題を知ることができました。
8月14日(木)	専門家との懇談会	専門家の方々との懇談を通じて、国際協力の現場で活躍する方々の本音を聞くことができた。
8月14日(木)	本日の振り返り	青年海外協力隊と専門家という立場の違いはあるが、国際協力に携わることとはどういうことであるかを考えた。
8月15日(金)	ザンジバル水公社 (ZAWA) プロジェクトサイト視察	昨日からの続きで、本日は生活レベルでの水に着目した視察を行った。民家へのインタビューや町中にある違法の水タンクなど興味深い内容であった。
8月15日(金)	ホームステイ先との交流	ZAWA の職員であるムディクさんの家でのホームステイをした。身近で人々の生活に触れられたことが大きな収穫であった。村の人々にとって、日本人はかなり珍しい存在でした。
8月16日(土)	ホームステイ先との交流	
8月16日(土)	教材購入	短時間ですが、ストーンタウンの町中を散策しました。観光地ということもあり、非常に物価が高いという印象を受けました。
8月16日(土)	本日の振り返り	特に、ZAWA での見学とホームステイでの出来事を中心にまとめました。
8月17日(日)	ダルエスサラームへ移動	高速船がものすごく揺れました。現地の方もとても苦しい状況でした。
8月17日(日)	モロゴロへ移動	モロゴロへはバスでの移動でした。かなり長時間の移動でしたが、車窓からアフリカの赤い大地と自然を感じるすることができました。
8月17日(日)	隊員との懇親会	モロゴロの市場の見学したのちに、隊員の方々との交流を行った。ともに、教育関連業務に従事していることから、様々な情報交換ができたこと

		もに、翌日の交流に関する打ち合わせもできた。
8月17日(日)	本日の振り返り	モロゴロではこれまでと違ったタンザニアを感じることができた。そして、国の違いによる教育事情を実感することができた。
8月18日(月)	キラカラ中等学校 稲村隊員 活動視察	まず、キラカラ中等学校のレベルの高さに驚かされた。日本から用意した交流活動を行うことができた。現地の生徒による日本語の歌のおかえしにはさらに驚かされた。
8月18日(月)	ダルエスサラームへ移動	交流活動による心地よい疲れの中、バスにてダルエスサラームに向かった。途中、バオバブの木なども見ることができ、自然を感じることもできた。
8月18日(月)	本日の振り返り	教育制度こそ違えども、高校生には共通事項も多くあるように感じられた。隊員の方の活躍にも感銘を受けた。
8月19日(火)	タンザニア電力供給公社 (TANESCO) プロジェクトサイト視察	日本の専門家の方が、電気事業における教育プログラムをはじめから構築したバイタリティには、教育に携わる者として敬服する思いでした。さらに、専門家の方の想いを感じることができた視察でした。
8月19日(火)	教材等購入	効率よく教材を購入することができました。ティンガティンガなどの文化的なものだけでなく、実用的なものも購入することができた。
8月19日(火)	本日の振り返り	専門家の方のタンザニアでの活躍と想いについてまとめるとともに、購入した教材から日本で行う授業展開を考えた。
8月20日(水)	JICA タンザニア事務所 報告会	今回の研修に関する報告をタンザニア事務所で行いました。多くに事を知ることができたと同時に、途上国での国際協力に関して更に見識を深めたいと思いました。
8月20日(水)	在タンザニア日本大使館 表敬訪問	初めて、大使公邸を訪問しました。当初緊張していましたが、大使との有意義な情報交換をすることができました。
8月20日(水) -21日(木)	タンザニアから日本までの 移動中および日本到着	帰路も長い時間にわたる空路でしたが、その中で今回の研修全体の振り返りと授業の素案を考えることができました。